



の次の行の「うけばりて」に「注」で「得意顔にふるまつて」とあり、それを「せず」と書かれていることと、次の行の「卑下したる」から⑤が弾かれ、正答の①に容易にいきつけた設問である。「注」をきちんと確認し、本文を丁寧を追うことを意識しよう。

最後に漢文（第4問）だが、得点率は四五・二%であった。得点率としては古文と同じくらいであるが、問2(1)の語の意味や問3の短い傍線部の解釈ができていないことからすると、古文以上に、内容が理解できていない諸君が多かったようだ。始めに述べたように、まずは句法や重要漢字の知識を身に付けよう。古文と比べて苦手な人が多いのが漢文だが、古文と比べて覚えるべきことが圧倒的に少ないので、頑張れば、成果がやすいのも漢文だ。もちろん、今回それなりの結果を出せた人は、間違えた部分について、解説や解説授業を利用して、しっかりと確認し、漢文を高2生のうちに得意分野にできるようにしてしまおう。

## II. 学習アドバイス

◆計画を立て、本格的な勉強をスタートさせよう。

高2生は受験学年を目前に控えている。ここから本格的な受験勉強をスタートさせよう。志望校合格のために、国語は一年後にセンター試験で何点取れるようになっていなければならないか、そのために、高2生の残り5か月で、どこまでレベル

アップしておく必要があるか考え、計画的に勉強を進めるようにしよう。最低限、現代文の語彙、古典分野の知識事項は高2生のうちに、必ずマスターしておこう。

現代文の語彙や知識は「現代文ハンドブック」、古文単語・古文常識は「古文ハンドブック」、古文文法は「古典文法をはじめからていねいに」、(いずれも東進ブックス)などを活用して身につけていってほしい。

◆模試の復習をきっちりやろう！

今回のテストの復習はできているだろうか。ただ受験することだけでは五〇%の価値しかない。復習をしっかりやってはじめてテストを一〇〇%活用できたことになる。そのことを頭において解答解説を熟読し、一つでも多くのことを学び取ってほしい。なお、テストを受験した諸君は、合格指導解説授業も受講できるので、是非活用してもらいたい。

また、復習とあわせて、返却された成績表をしっかりと読みこんでほしい。東進模試の成績表は情報と学力向上のためのヒントの宝庫だ。各自の成績状況や弱点の分析と、何をどう克服すれば次回以降の得点アップにつながるのかが、はっきりわかるようになっていっている。復習の際は必ず手許においておこう。